

2026_0104 「雪煙の初富士」 日々の理科 4165 号

お茶の水女子大学 サイエンス&エデュケーション研究所 田中 千尋

1月3日の午前中、関越自動車道・高坂サービスエリアで撮影した、今年の「初富士」です。正月になると、毎年のようにこの場所に立ち寄り、同じ方向にカメラを向けて富士山を写すのが、いつの間にか自分の中での恒例行事になっています。冬の澄んだ空気の中に浮かび上がる富士の姿は、何度見ても新鮮で、その年の始まりを静かに告げてくれる存在です。

この日の富士山は、山体中央を縦に刻む吉田大沢がとくに明瞭で、長年の浸食によって形づくられた谷の存在感がはっきりと伝わってきます。方位的には、山麓の忍野付近から見上げた構図に近く、富士山の左右の稜線の張り方や、雪のつき方にもその印象がよく表れています。山頂付近には、風にあおられた雪が舞い上がっているようにも見え、雪煙か、それともごく薄い雲なのでしょうか？どちらにしても山頂付近の強風を意味し、冬の富士さん特有の厳しさを感じさせます。

手前に重なる山並みと送電鉄塔が、富士山までの距離感を際立たせ、関東平野の縁から仰ぎ見る富士のスケールの大きさを改めて実感させてくれます。毎年同じ場所、同じ季節に撮っていても、空の色や雪の表情、風の気配は少しずつ異なり、その違いを確かめること自体が、新年の楽しみの一つになっています。

(2026年1月上旬／関越自動車道 高坂SA下り線)

